

パブリックコメントとして寄せられた意見及び回答

<取扱い>

- 計画に反映するもの
- 計画に盛り込まれているもの
- △ 今後の参考とすべきもの
- ☆ 採用に至らないと判断したもの

No.	テーマ	意見	取扱い	回答
1	計画書の記載	策定主体は、区民であり、行政が、策定する計画よりは、柔軟に、自由に、目標も大きく掲げてよいのではないのでしょうか。やや、遠慮気味な感じを受けます。大胆に行きませんか？	□	P25に記載されているとおり、今期計画では前期計画の方向性を継承しつつ、より多様性と地域住民の主体性がイメージしやすい基本理念にブラッシュアップされています。また前期計画のふりかえりを経て、今期計画では社協事業を補完的位置づけにとどめ、あくまでも地域住民（区民、地域、企業・団体）が取り組む計画であることを鮮明に打ち出しています。
2		第1期計画では、5年間の①タイムスケジュールと②5年後の理想の姿を記載していました。今回も、同様に、①と②の記載をお願いします。	☆	今期計画では、前期計画のふりかえりを踏まえて、タイムスケジュール等は掲載せず、区民主体の多様で柔軟な取り組みを推進することにしました。
3		中央区基本構想のひとつの柱が、「プロアクティブ・コミュニティ」です。その用語がないため、両者の整合性を持たせるためにも、用語を入れてはいいのでしょうか。	□	「プロアクティブ・コミュニティ」という用語は用いておりませんが、本計画は「中央区保健医療福祉計画2020」と車の両輪の関係にあり、区民の支えあいを基盤とする地域づくりを目指すもので、区の基本構想とも整合性は図れていると考えています。
4		居住形態別世帯割合の推移において、居住階層の再考を6階以上とするのではなく、20階以上も割合の把握をお願いします。本区の超高層の現実が、現れていないため。	☆	P9（6）の表・グラフについては、本計画の課題抽出に必要な「共同住宅に居住している世帯の割合が年々増えていることを示すデータ」として掲載しております。
5		合計特殊出生率の年次変化の表について、第1期同様、入れていただけますようにお願いします。	☆	上記同様、表・グラフについては全体のバランスも考慮の上、掲載しております。
6	計画の評価	地域福祉活動計画推進評価報告書へのパブリックコメントをし、計画の評価に関する意見も求めてもよいと考えます。	△	参考とさせていただきます。
7	居場所・拠点	月島地域には、勝どきテイルーム、日本橋地域には、浜町多世代交流スペース（仮称）がある。京橋地域には、社協本体があるが、そこが、居場所機能、相談機能も持たせるようにお願いします。かつ、京橋地域は、京橋図書館移転後の空いたスペースに、ボランティア活動拠点を創るよう区に働きかけをお願いします。また、月島地域の晴海地区には、あらたな大きな街が誕生するため、その方々が、ボランティア活動などできるように、そのための拠点を、ほっとプラザはるみなどを用いて構築できるように、区に働きかけをお願いします。	□	P29に記載されているとおり、「居場所・地域活動拠点支援」は本計画で掲げる「目指す地域の姿」の実現に欠かすことのできない取り組みと考えています。誰もが気軽に立ち寄れる居場所づくりについでには京橋地域に限らず、増設に向けて引き続き区と連携して対応してまいります。
8	ボランティア活動	「イナっこ」、ボランティア講座、福祉体験宿泊、場づくり入門講座、ささえあいサポーター養成講座など参加した方々の経験を一過性で終わらせるのではなく、福祉の情報や案内がそれ以後も届けるようにしていただきたいと思えます。関心のある方には、民生・児童委員を紹介する等して、民生・児童委員の空白地域をなくすようにもしていただきたいです。	□	社協が行う「地域福祉活動への参加きっかけづくり」は、本計画が目指す「多様なつながりのある地域」や「みんなが活動しやすい地域」の実現を下支えする重要な取り組みであり、P32に記載されているとおり、新たな活動者の養成・発掘やスキルアップ、社協のネットワークを生かした新しいつながりづくり等の充実を図ってまいります。
9		東京2020大会のレガシーの最重要なレガシーは、ボランティアマインドの醸成です。コロナ禍、開催が流動的ではあるものの、一旦、やる方向になったなら、東京2020大会でいかに、ボランティアの活躍の場をつくるか、その会議体や準備ができるように、五輪協議会ボランティア部会との連携を密に取られるようにお願いします。	☆	東京2020大会に関して社協では、令和元年度に区のボランティア検討部会に職員が参画し、折り鶴ウェーブのイベントに社協のネットワークを生かして取り組んできたところです。
10		ボランティアの機会は、福祉分野だけではない。公園の整備や、グリーンインフラの整備など都市整備部や環境土木部とも連携し、ボランティアの機会の創出をお願いしたい。	□	社協に登録しているボランティア団体は福祉分野以外にも環境、子育て、文化・教育など多岐にわたっており、今後も引き続き区民の幅広いボランティア活動を支援してまいります。
11		ファミリーサポートの方のスキルアップには、オンライン講座を受講して学べるようにするなどスキルアップをする機会を積極的に創出願います。	□	ファミリー・サポート・センター事業では、実技を伴う救急救命講座等を除き、一部講座のオンライン開催について具体的に検討を始めています。また社協としてはICTの活用による講座開催や各種ボランティアのスキルアップについて現在も一部で導入しているところですが、今後も効果等を確認しながら充実を図ってまいります。
12	生涯教育	生涯教育拠点である図書館が、本の森ちゅうおうとして整備されます。学ぶことは、心の癒しにもなります。なかなか、出てこられない高齢者のかた、引きこもられている方、悩みを抱えておられる方にも、学びの機会へのアクセスを容易にし、学ぶことによる健康寿命の延伸、悩み・ストレスの解消にも生かしてみてください。	□	さまざまな区の事業との連携を推進してまいります。
13	障害者就労	障害者就労について、中小企業にもセミナー開催し、雇用の受け入れ先の拡大をお願いします。 自立支援協議会とも連携をお願いします。	□	単なる雇用拡大にとどまらず、障害のある方にとっての就労を社会参加の一環と捉えて、多様性の確保や質の向上に努めているところです。
14	他機関等との連携	コーディネーターの連絡会を設置し、各分野での支援の情報交換、連携をお願いします。それぞれが、制度のはざまの方をどのように支援しているか、そのノウハウが共有できるのではないかと考えます。	□	既存の協議体や地域ケア会議等において、関係機関・団体等とのいっそうの連携強化に努めているところです。
15		障害者支援の現場の状況は、自立支援協議会とも情報共有ができるような体制をお願いします。	□	自立支援協議会には、親会および専門部会にそれぞれ社協職員が参画しておりますが、現場の声が反映されるよう、情報共有に努めるとともに、新しい取り組みの企画・立案にも携わってまいります。
16		関係団体とのヒアリングでは、障害者の7団体には、ヒアリングを行うことを今後はお願いします。	□	本計画の策定にあたり、区内障害者7団体様には「地域の現状と課題」等のテーマでヒアリング調査を行い、結果は第2章の「2 調査結果等および策定委員会意見から」に抽出しております。
17		協働ステーションと社協の連携強化をお願いします。	□	本計画策定委員会委員として協働ステーションの職員を委嘱しており、引き続き同推進評価委員会にも参画していただく予定です。また協働ステーションの委員には社協職員が委嘱されており、今後はこうしたつながりを生かしながら情報共有や相談対応などにおいて連携強化に努めてまいります。
18	中央ぶらねっと参加企業を、大幅に増加できるように、取組をお願いします。企業へのアプローチ等、活動内容の案内を各企業に配布などをお願いします。	□	「目指す地域の姿」の実現に向けた取り組み主体には企業・団体も含まれます。本計画が目指す支えあいの地域づくりに不可欠なパートナーと位置づけ、中央ぶらねっとや中央区社会福祉法人連絡会、社協法人会員などへの多様なアプローチを今後とも続けてまいります。	
19	物品調達	物品調達は、障害者施設、高齢者福祉施設へまずは、調達がかげられないかと常に持つようにお願いします。	☆	障害者優先調達推進法を踏まえた調達が心がけております。
20	災害時対応	災害時の個別避難計画の策定と、実際に避難する場合に、その避難を支援する人が、決められていないことが多くあります。避難を支援するかたを早急に配置できるような取組をお願いします。	□	P27で「多様なつながりのある地域」づくりに向けた社協の役割として、「災害時における区民による助けあいを意識したつながりづくり」を挙げています。
21	コロナ禍における課題	コロナ禍、外出自粛により体力低下が、ご高齢のかたや障がいのある方に起きています。まずは、実態調査が必要であり、そのうえで、居場所、図書館、仕事等、外出の機会の創出をお願いします。	□	外出機会の創出は、「目指す地域の姿」の実現に向けた具体的な取り組みとして重要です。コロナ禍での地域活動は活動者である地域住民も感染への不安を抱えながらの活動となりますので、こうした不安に寄り添いながら、取り組みを進めてまいります。
22		コロナ禍、削減をすべきではない最も大事な分野であるが、万が一、削減されるようなことがあったとしても、優先順位をきちんとつけ、切り詰められるところは切り詰められるように、考え方の整理をお願いします。	☆	計画を踏まえた適正な予算編成を行っています。
23	広報・伝達手段	情報誌を統合し、一冊にまとめるのも手ではないかと考えます。	☆	必要な方に必要な情報が届くように、さまざまな媒体の活用や提供方法の工夫を図ってまいります。
24		オンラインを用いた会議・講習会、対面ですべきところできないためのオンラインを用いた相談事業、ネットを用いた広報、ネットを用いた録画動画などコンテンツの提供など、ネットの活用、ICTの活用が当たり前の時代に、また、コロナ禍、用いざるをえない状況下になってきている。社協、協働ステーション、勝どきテイルーム、浜町多世代交流スペース（仮称）、さわやかワーク中央など関連施設のネット環境の整備を早急に行うように、区に働きかけをお願いします。	□	コロナ禍の中、ICTの活用は社協としてもすでに試みているところです。例えばオンラインと対面式を併用したハイブリット型会議や区民向けのオンライン活用講座等をすでに開催しましたが、P28に記載されているとおり、今後は特に広報・啓発・情報発信について充実を図っていく必要があると考えています。